

滞在報告

精密有機合成化学領域

D3 権藤 匠洋

私は、化学研究所若手研究者国際短期派遣事業にご採択いただき、2019年6月30日から2019年9月24日の日程で、イギリスのエディンバラ大学に研究滞在させていただきました。エディンバラはスコットランドの首都であり、イギリス北部の都市です。エディンバラは町自体が世界遺産に登録されている古都であり、古くからの建物が多く趣のある街です。

私が滞在したエディンバラ大学はイギリス屈指の大学の1つであり、多くの著名な教授が在籍しています。その中でも私は気鋭の研究者である Andy Lawrence 研究室に渡航しました。そこで私は、Andy が提案している新たな不斉合成に対する概念の実現に従事しました。その研究には主にパラジウムやニッケルといった遷移金属を用いた反応を行うのですが、所属研究室ではあまり有機金属を多用してこなかったため、文献調査に多くの調査を必要としました。結果としては初期検討としてはまずまずの不斉収率で所望の化合物を与えました。

研究室はすべての学生およびスタッフが対等な関係でディスカッションを行っており、自由な雰囲気の中で研究を推進していました。特に教授と毎日朝、夕に実験台で行う実験の進捗や週末の予定などに関するディスカッションは刺激的でした。また、隣り合ったラボや近くの研究室との交流が多く、皆で協力して新たな研究を行っていくという風潮を感じました。

今回の研究滞在を通して、研究に関して新たな知見を得たにとどまらず、日本人と全く思考法の異なる人たちと働く楽しさを感じることができました。イギリスの研究室の友人も日本で研究をしてみたいと言っていたので彼らが化研にいつか来てくれることを期待しています。最後に、このような機会を頂いた関係者様、快く送り出してくださった研究室スタッフの皆様や学生達に、この場を借りて深く感謝申し上げます。



エディンバラ城近くで



ラボメンバーとの飲み会（おつまみはいつもなし）